みはら

HIROSHIMA



三原市定住応援マガジン

ミハラビト

NO.4

暮らしのそばに山と海があり
穏やかな青い空がそれらを繋いでいる

そんな
ゆったりとした時が流れる
三原のまち

瀬戸内の小さなまちですから
おそらく
ご存じない方も多いと思います

でも
住んでみると
なんとも「ここちいい」

暮らしを豊かにしてくれる
自然や美味しいもの
お祭りもあるまちなんです

それから
なんといっても「人」がいい

「おもしろいな〜」と思うような
暮らしを満喫してるミハラビトが
たくさんいるんです

だから
おすすめしたくなります
このまちに暮らすことを

この冊子を手にしたみなさん
少し興味が湧いたら
ミハラビトが暮らしている
このまちに来てみませんか？



◀では 三原市へ移住した ミハラビトさんをご紹介します！

※移住用語イロイロ

- **Uターン**／出身地以外で暮らした後出身地に戻り住むこと
- **Jターン**／出身県内で出身市町以外に移住すること
- **Iターン**／出身地ではないところに移住すること
- **嫁ターン**／夫婦・家族が妻の出身地に移住すること

三原市には「広島空港」
新幹線も利用できる「JR三原駅」
瀬戸内の島々とを船で結ぶ「三原港」
があり
交通の便が最高なんです！





三原市中心部への交通アクセス

- ■ 新幹線で　山陽新幹線「JR三原駅」で下車
- ■ 在来線で　山陽本線・呉線「JR三原駅」で下車
- ■ 車で　山陽自動車道「三原久井IC」から約15分
  または「本郷IC」から車で約20分
  しまなみ海道・山陽自動車道「尾道IC」から約20分
- ■ 飛行機で　広島空港からリムジンバスで約40分
  (株)中国バス　TEL 0848-48-2211
- ■ 船で　生口島・因島から定期航路便あり
  「三原港」からJR三原駅まで徒歩5分

デザイン

まちとつながるミハラビト

井藤 成美

Ito Narumi

Uターン



●いとう　なるみ
1995年生まれ、三原市須波出身。幼い頃より海に親しんで過ごす。地元の高校卒業後、東京の美術大学に進学。卒業後は迷うことなくUターン。現在はデザイナーとして、三原のまちづくりに関わる。
pampacampani



MAKE! REMAKE! ミハラダルマ

三原の伝統民芸品“三原だるま”とプログラミング教育をかけあわせたプロジェクトに企画段階よりデザイナーとして参加。

「MAKE! REMAKE! ミハラダルマ」「バリアフリー in 三原」のロゴマークは第11回広島アートディレクターズクラブ（HADC）で審査員賞を受賞。



体の不自由な方も一緒に海を楽しむ交流イベント「バリアフリービーチ in 三原」のデザインを担当。





Uターンミハラビトの気づき

移住する際に大切なことは受け身にならないこと。人との出会いも経験も、自ら意識して動くことで繋がっていくような気がします。

三原→東京→三原

三原市須波の海岸から眺める海は、瀬戸内の中でも、ナンバーワンだと誇れるほど美しい。そんな風景を日々、目にしながら「三原をもっとおもしろいまちにするには？」と考えているミハラビトがいる。高校卒業までここ須波で過ごし、東京の美術大学卒業後、Uターンで戻ってきた井藤さんだ。

現在は大学時代の友人と、デザインユニット「パンパカンパニ」を立ち上げ、三原のまちづくりに関わる様々なプロジェクトに関わりながら、備後地域全体でデザインの活動に取り組んでいる。

やっぱり三原っていい

大学時代の4年間を過ごした東京。観たいものを観ることができ、体験したいことを体験できる魅力的な場所。でも、何もかもがスムーズに行き過ぎる暮らしに少しの違和感を感じた。将来は東京のデザイン会社に就職したいと考えた時期もあったが、三原に帰省する度に「生まれ育ったこのまちで、海が見えるこの場所で、ものづくりがしたい」、そう気持ちが変化していった。思い立ったらとにかく動く。インターン、イベントの手伝い、マルシェへの出店など、在学中から「三原のまちづくり」をキーワードに、気になることは何でもやってみた。それをきっかけに人の輪も広がった。デザイナーとなった今でも、興味のあるものはとりあえずやってみる。そのスタンスは変わらない。

日々の暮らしが豊かなまち

三原の魅力はそこにあると、井藤さんは感じている。観光だけでは伝わらない、日々の暮らし。東京での4年間があったからこそ、ここでの暮らしの豊かさを再確認している。目の前に広がるキラキラと輝いている海にも、気付けば毎日元気をもらっている。当たり前すぎる日常の中に、三原の魅力があると実感している。

そしてそこからもう一歩。「デザインの力で、三原の暮らしやミハラビトの心をより豊かにしたい」と、ひとつひとつのデザインを大切に、日々の活動に励んでいる。

航空

空とつながる
ミハラビト

神原 智也

Kanbara-Tomoya

Jターン



●かんばら　ともや
1996年生まれ、広島県府中市出身。高校を卒業後、大阪の航空専門学校で学び現在の仕事に。グランドハンドリングとして日々何機もの飛行機を空に送り出している。



着陸から次の離陸までの短い時間に、貨物の積み降ろし、機体の誘導などを担当する。機体が滑走路へ向かう際には必ず手を振って見送る。







■グランドハンドリングとは？■
空港における航空機の誘導や、貨物の塔降載といった業務

子どもの頃からの夢叶え そしてミハラビトに

三原市の魅力の一つに「陸」「海」「空」が交通手段として大いに利用できることが挙げられる。その一つ、空の玄関口として位置付けられているのが三原市本郷町にある「広島空港」。そこで、日々「仕事のおもしろさ」を実感しながら働いているのが神原さんだ。

子どもの頃から度々この空港を利用する中で、大きな機体の周りで働く人たちに心惹かれた。専用車輌で飛行機を誘導したり、貨物を運び入れたりする、その姿に憧れ、将来の夢へと繋がった。生まれ故郷である広島県府中市で高校卒業までを過ごし、その後は迷うことなく大阪の航空専門学校に進学。2年間グランドハンドリングになるための知識と技術を身に付けた。

「広島大好きです」

大阪に移っても広島への郷土愛はまったく揺るがなかった。揺らぐどころか違う土地に暮らしたことで故郷への想いが深くなった。「就職先は広島空港と決めていました」。子どもの頃、飛行機の魅力に心奪われたその空港で働く、それ以外に神原さんの選択肢はなかった。

そして、夢が叶って今の仕事に。Jターンで住まいを三原市に移し、空港へ向かう日々を過ごしている。屋外での仕事なので天候によっては大変さを感じるときもある。でも、資格を取りながらステップアップできるこの仕事がおもしろくて仕方ない。

三原の魅力は「食」にあり

職場には三原市出身の同世代や先輩も多い。一緒に食事やお酒を楽しむ際は、もちろん地元のお店に。「三原には美味しいものが多い」そう話す神原さんには、すでにお気に入りのお店も何軒かある。

三原に暮らして3年。まだまだ「食」への探究心は強くなるばかりだ。と同時に、第二の故郷「三原」への愛も発展途上中だ。

新米ミハラビトの気づき

三原市は食事をするお店、日用品を買い揃えるお店、どちらも充実していると思います。ただ、国道2号と185号の渋滞がもう少し緩和されればもっと住みやすくなりますね。

カフェ&宿

食とつながるミハラビト

田中 裕士・咲子

Tanaka Hiroshi・Sakiko

Iターン









●たなか　ひろし・さきこ
ひろし／1985年生まれ、大阪府出身。20代は東京で俳優として活動。
さきこ／1987年生まれ、東京都出身。20代より飲食業に携わる。
2歳の愛娘と3人暮らし。休日には山や海など三原の自然を満喫して過ごしている。
古民家カフェ＆宿 むすび／三原市須波1-2-19　TEL.0848-88-9155
musubi_mihara

新たな土地で心機一転

須波に素敵な古民家カフェがあるらしい。そう聞いて訪れた「古民家カフェ&宿 むすび」。令和元年ゴールデンウィークにオープンしたその店は、Iターンで三原市に移住した田中さんご夫妻が営んでいる。国道185号、瀬戸内海を望む海岸線沿いに建つ「むすび」は、築120年の元料亭別邸をリノベーションしたものだ。

夫妻揃って都会育ち。20代はそれぞれ幾つかの職を経験し、最終的に2人が目指したのは自分達で飲食店を構えること。「古民家再生」が注目されていた時期と重なり、「古民家カフェ」オープンが夢となった。

その頃暮らしていた大阪で、古民家カフェめぐりをしながら、夢実現の家探しが始まった。大阪を離れることも視野に入れ、各地の「空き家バンク」に登録。そして運命的に出会ったのが、須波に建つこの古民家。まさに一目惚れだった。

移住・起業へアクセル全開

それからは、三原市や「まちづくり三原」(※)からの様々な移住・起業に関するアドバイスや支援をフル活用。移住者と同じ目線に立った、具体的なサポートは2人の夢を実現のものへと一歩も二歩も近付けた。そして、この古民家に出会ってわずか2か月で移住。さらに1年後には「むすび」をオープンする運びに。

オープン前よりSNSを活用し、店の様子や料理などの写真を発信していたこともあり、滑り出しは順調。現在も訪れる人が後を絶たない。妻の咲子さんが三原の食材を使って料理し、夫の裕士さんがお客様にサーブする。和モダンに生まれ変わった古民家は、心地いい時間を提供してくれる。「家も息を吹き返して、喜んでくれているよう」田中さん夫妻もそう話す。

三原のイイトコ知ってほしい

移住して約2年。自然豊かな三原のお気に入りスポットも増え、「同時に「他県の方に三原をもっと知ってほしい」と思うようになった。まずは「むすび」へ一人でも多くの方に足を運んでいただくことから。それが夢を叶えた三原への恩返しに繋がるのでは。そう思っている。

新米ミハラビトの気づき

都会では行政との距離を遠く感じることもありますが、三原市は移住者に対し多くの支援があり、親身に相談にものってくれます。本当にありがたかったです。

(※) まちづくり三原とは？
中心市街地の活性化を目的に設立したまちづくり会社で、市と連携した創業支援事業等を行っている。

音楽

奥﨑 晃・和子

Okusaki Akira・Kazuko

音とつながるミハラビト

Jターン



●おくさき　あきら・かずこ
あきら／1954年生まれ、広島市出身。若い頃よりギター演奏に親しむ。オートハープ歴10年。
かずこ／1953年生まれ、京都府出身。同じく若い頃よりギターを演奏。ドールハウス作家としても活動。
築100年の古民家の改装は、床の張替えから壁の塗り替えに至るまですべて2人だけで行う。



和子さんが製作したドールハウス。この作品は令和元年、三原市美術展覧会で奨励賞を受賞。



2人の演奏会は、いつも笑いがあふれている。

オートハープデュオ“どらわこ“

久井町のコミュニティーセンターの一室から、優しい弦楽器の音色と楽しそうな歌声が聞こえてくる。毎月1回開催される「歌声サロン」は、1年4か月前に大阪より久井町に移住してきた奥﨑さん夫妻が主催している。伴奏に使われているのは「オートハープ」。アメリカ発祥の楽器で、その音色には癒し効果があるとも言われている。現在2人は、オートハープデュオ“どらわこ“として、三原市を中心に高齢者施設などに出向き、演奏と歌、そして最高の笑顔を届けている。2人の住まいは久井町にある築100年の古民家。空き家バンクで出会った終の住処だ。夫の晃さんは広島市出身。長年関西で暮らしていたが、故郷に一人で暮らす母親のためにと、リタイヤ後に広島県内へJターンすることを決意。妻の和子さんと共に3年間かけて、移住計画を進めた。

思いが縁を結び、久井町へ

移住計画1年目は、移住先で実現したい夢を具体的に考え、移住の目的を明確にした。そこでまず挙がったのがオートハープの演奏。近所へ気兼ねすることなく、音を奏でられること。そして、ドールハウス作家でもあった和子さんが、ゆったりと製作に向き合えること。それらを叶える「家探し」を2年目に開始し、久井町の古民家と出会う。そして3年目に「移住」の運びとなった。「移住の際に大切なことは、そこで何をしたいのかを思い描くこと」、和子さんはそう話す。はっきりと思い描くことで、自然に人と繋がり、縁を結んでいくことができる。実際に、移住前より三原市内の公民館で、ドールハウス教室を開催する縁に恵まれ、移住後から現在まで、久井町はもちろん三原市内外からの演奏依頼が絶えない。

夢は久井町音楽祭！

久井町は自然豊かで、空気が美味しい。水も美味しいし、星空も美しい。でもなにより一番は、お互いのために何かをしてあげたいと思ってくれる人が大勢いること。自分たちの夢を実現できた久井町で、今度は音楽を通してみんなの夢を叶えたいと思っている。

新米ミハラビトの気づき

久井町は山間部に位置するので、町内の移動はもとより、三原市中心部へ行く際なども、車を利用することが多いです。バスという手段もありますが、運賃や利便性に少し課題があるかなと思います。

農業

土とつながるミハラビト

小泉甲祐

Koizumi Kosuke

嫁ターン

●こいずみ　こうすけ
1984年生まれ、兵庫県出身。スーツに身を包み、地元神戸でアパレルマンとして12年間過ごす。33歳で地域おこし協力隊の一員として大和町へ。以後、農業の道を進む。





三原市移住定住関連事業のご案内 みはらの暮らし応援

三原市では、市外からの移住及び市民の定住を応援するため、様々な取り組みを行っています。

STEP① 三原を知る

● **三原市ホームページ「三原市交流・定住コーナー」**
三原市定住応援マガジン「ミハラビト」
http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/iju/

● **三原市 Facebook**
https://www.facebook.com/city.mihara

STEP③ 三原に住む

● **空き家バンク及び空き家改修等支援事業**

○空き家の有効活用を通して、家屋等の資産の保全と定住促進・地域活性化を目的に、市内にある空き家を、その所有者等の申し込みに基づいて登録し、希望する市域外住民等にあっせんします。

○空き家バンクを活用して、定住する場合、空き家の改修費及び家財整理に要する経費を補助します。(改修費上限30万円、家財整理上限10万円)

● **若年・子育て移住世帯家賃補助**

市内の賃貸住宅に市外から入居する若年層(40歳以下の夫婦、子育て)世帯に対し、家賃の一部を支援します。(1カ月上限3万円、最長36カ月)

● **ファーストマイホームの取得応援**

市内において、新たに住宅を取得する若年層(40歳未満の夫婦、子育て)世帯に対し、住宅購入費用の一部を支援します。(上限100万円)

● **地域おこし協力隊**

3大都市圏等の地域から人材を誘致し、その定住及び定着を図るとともに、地域力の維持及び強化、地域活性化を目的に、地域おこし協力隊推進要綱(総務省)に基づき、三原市地域おこし協力隊を配置し、地域協力活動を行っています。(最長3年)

STEP② 三原を見る



● **お試し暮らし滞在費補助**

広島県外に在住で三原市への移住を検討されている方が、市内で仕事や住まいを探したり、生活環境を体験するために、2泊以上宿泊する場合、その費用の一部を支援します。(1泊あたり上限2,500円)

その他 【起業・創業、就農、就職支援】

① 就職支援：Jデスク三原

「Uターン就職情報ステーション」では、登録者に市内企業等の求人情報をお届けしています。UJIターンを希望する方等を対象に、年2回の就職ガイダンスを実施します。(8月、翌2月 ※変動あり)

② 起業・創業支援：中心市街地新規出店支援事業

市中心市街地の空き店舗を活用した新規出店者に対し、改装費・家賃の一部を助成します。(1店舗あたり上限98万円　改装費補助50万円、家賃補助48万円)

③ 起業・創業支援：地域商業活性化支援事業

中心市街地の空き店舗を活用した新規出店者に対し、改装費・家賃の一部を助成します。(1店舗あたり上限86万円　改装費補助50万円、家賃補助36万円)

④ 就農支援：三原市新規就農者育成研修事業

市内で、重点品目を中心として就農する方を対象に、基礎実習や講義等の研修を1年間行っています。(奨励金：1人あたり上限年間84万円)

⑤ 就農支援：三原市新規就農者支援事業

新規就農者に対し、就農直後の経営安定を目的に支援を行っています。
(1人あたり上限年間150万円)

お問い合わせ
おいでや三原プロジェクトワンストップ総合窓口
(三原市経営企画部地域企画課内) TEL 0848-67-6011
■詳しくはホームページをご覧ください

幸せの三原ぐるめ

タコ

瀬戸内海有数のマダコの産地
この土地ならではの、
多彩なタコ料理が楽しめる！

水温の一定したきれいな海水や適度な岩場といった、タコの生育に適した環境が整っている三原沖は、瀬戸内海有数のマダコの産地。潮の流れが速い三原沖のタコは、岩にしっかりと張り付くため筋肉質で足が太く短いのが特徴です。

三原のタコ漁は代々世襲制。受け継がれた漁場で、ブイやGPSに頼らない「山立て（陸上にある建物などの目印から漁のポイントを把握する方法）」により、伝統的な「タコつぼ漁」で行われているのが特徴です。網漁に比べて手間や労力がかかりますが、身が傷つきにくく味が良いため、タコつぼ漁で獲れたタコを「幻のタコ」と呼ぶ地域もあるようです。また、世襲制やタコつぼ漁を行うことで、乱獲を防ぎ、豊かな漁場を守っています。

三原では古くから「タコを食べる文化」が花開き、生タコの刺身や、生タコを豪快に天ぷらにするタコ天といった、特徴的な食べ方でタコを楽しむことができます。さらにタコづくしのコース料理やイタリアン、お好み焼きやおやつなど多彩なタコ料理を味わうことができるのも、〝三原ならでは〟の特徴です。











地酒・醉心

世界的に評価の高い伝統の地酒・醉心
ご当地ならではの、
特別な飲み方が楽しめる！



三原の酒は「万葉集」の歌に「吉備の酒」として詠まれたことをはじめ、その後の文献でも度々記録に登場するなど、古くから三原が酒の銘醸地だったことを伺い知ることができます。

現在も営業を続けているのは㈱醉心山根本店のみですが、第二次世界大戦後は10軒余の蔵元がありました。三原で酒造りが発展したのは、酒造りの材料である米と水に恵まれていたことに加えて、海上交通の要衝であった土地柄から、造った酒を各地に運ぶことが容易で、販路拡大がしやすかったことも理由と言われています。

醉心の創業は万延元年、明治時代から数々の賞を受賞しましたが、大正時代に全国酒類品評会で3回連続優等賞を受賞したことで、名誉賞受賞の栄誉に輝き、「名誉醉心」として国内外で知られるようになりました。水や米にこだわった「超軟水仕込み」の酒造りにより、「辛口にして甘露」な醉心は多くのファンを魅了しており、近年では国際的な品評会で受賞するなど、日本のみならず海外でも注目を集めています。

三原市内では、醉心そのものを提供するお店はもちろん、醉心を使ったカクテルやお菓子、タコ料理とのセットメニューなど、〝三原ならでは〟の楽しみ方で醉心を提供するお店も増えています。

おやつ

歴史あるものと新しいものを取り入れながら三原のおやつ文化が発展中！

三原は戦国の知将 小早川隆景公が築城した三原城の城下町、そして、瀬戸内の交通の要衝として発展してきた歴史から、人や物が行き来する場所となり、おもてなしのための喫茶や、手土産などでお菓子を求められる機会が生まれやすい場所でした。

そのため三原には、現在でも製菓店や喫茶店（カフェ）が多くあり、古くから親しまれている銘菓はもちろん、トレンドに乗ったカフェメニューや、全国的に人気の高いスイーツ、さらには、地元の食材を使った新たなスイーツなども登場しています。

個性豊かな三原のお店で、素敵なおやつタイムを楽しんでみてはいかがでしょうか。


























三原市経営企画部 地域企画課 企画調整係

〒723-8601　広島県三原市港町3-5-1
TEL 0848-67-6011　FAX 0848-64-7101
chiikikikaku@city.mihara.hiroshima.jp

ホームページも
ご覧ください

三原市定住　検索

ミハラビト NO.4
みはら